

よみ

えん した ちからも
縁の下の力持ち

なぞりがき

縁の下の力持ち

いみ

ひとめ ところ たにん くろう
人目につかない所で、他人のために苦勞し
たり努力したりすること。

よみ

お
老いては子にこ従えしたが

なぞりがき

老いては子に従え

いみ

としと
年を取ったら、
なになにごとも子にこまかせてしたが従うの
がよい。

よみ

おおぶろしき ひろ

大風呂敷を広げる

なぞりがき

大風呂敷を広げる

いみ

じっさい

実際にはできないような大きなほらを吹い

おお

ふ

おお

い

たり、大げさなことを言ったりすること。

四十四

よみ

おご へいけ ひや
驕る平家は久しからず

なぞりがき

驕る平家は久しからず

いみ

けんりよく せいこう
権力や成功にあぐらをかき、
ごうまん ふう ま
傲慢な振る舞
もの なが さか
いをする者が長く栄えることはない。

よみ

おに かなぼう
鬼に金棒

なぞりがき

鬼に金棒

いみ

ただでさえ強い者が、さらに強さを加えること。

よみ

鬼きの居いぬ間まに洗濯せんたく

なぞりがき

鬼の居ぬ間に洗濯

いみ

こわい人ひとやうるさい人ひとがいない間あいだに、くつろいだり、好きすなことをして楽たのしむこと。

四十七

よみ

鬼の目にも涙
おに め なみだ

なぞりがき

鬼の目にも涙

いみ

冷酷で無慈悲な人も、涙することがある。
れいこく むじひ ひと なみだ

よみ

己おのれの欲ほつせざる所ところは人ひとに施ほどこす勿なかれ

なぞりがき

己の欲せざる所は人に施
す勿れ

いみ

自分じぶんがしてほしくないことを、他人たにんにしては
いけない。

よみ

帯おびに短みじかしたすきに長ながし

なぞりがき

帯に短したすきに長し

いみ

中途半端ちゅううとはんぱで、役やくに立たたないこと。

よみ

おぼ もの わら
溺れる者は藁をもつかむ

なぞりがき

溺れる者は藁をもつかむ

いみ

こんなん ちよくめん
困難に直面している人は、頼りにならない
ひと たよ
ものでもすがりついて救いを求めようとする。
すく もと